

国立大学法人岐阜大学の平成25年度に係る業務の実績に関する評価結果

1 全体評価

岐阜大学は、「学び、究め、貢献する」地域に根ざした国立大学として、東西文化が接触する地理的特性を背景としてこの地が培ってきた多様な文化と技術の創造と伝承を引き継ぎ、学術・文化の向上と豊かで安全な社会の発展に貢献することを理念としている。第2期中期目標期間においては、人材養成を最優先事項として位置付け、質・量ともに充実した教育を行い、高度な専門職業人を幅広い分野で養成し、社会に輩出すること等を目標としている。

この目標達成に向け学長のリーダーシップの下、学生の国際的通用性を高める教育を推進するため、全学共通教育における少人数制の英語クラス編成や、自学自習型の語学学習システム（Net Academy2）の運用基盤強化など、学生の主体的な英語学修活動を促す改善に取り組むなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（機能強化に向けた取組状況）

教学ガバナンスの強化のため、新たに「教育推進・学生支援機構」を設置し、既存の組織を統合するとともに、同機構内に7つの部門（学生受入部門、教養教育推進部門、学修支援部門、学生生活支援部門、地域教育連携部門、教職課程支援部門、キャリア支援部門）と1つのプロジェクトセンター（イノベーション創出若手人材養成センター）を設け、各部門が横断的な連携体制を構築して、対話と協働を活用した合意形成と改革の浸透を目指している。

2 項目別評価

I. 業務運営・財務内容等の状況

（1）業務運営の改善及び効率化に関する目標

（①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化）

平成25年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 入学から卒業・修了までの一貫した修学支援体制を構築し、全学的教育の推進及び学生への支援を推進するため、新たに教育推進・学生支援機構を設置したほか、共同獣医学科設置に伴い、共同教育の推進を図るため、共同獣医学教育開発推進センターを設置し、教育の質向上に向けた取組を一層推進することとしている。
- 同窓会との関係性を強化するため、同窓会連合会総会及び学部同窓会支部総会等へ学長及び理事が参加し、大学の現状と課題を説明するとともに教育活動等への協力依頼や意見交換を行ったことにより、「先輩社会人との交流会」事業への同窓生の出席や「岐阜大学キャリア・就職白書」への同窓生からの寄稿が行われるなど、同窓会員の教育活動への参画を図ったほか、帰国留学生同窓会の開催や上海オフィスへの帰国留

学生同窓会連絡所の設置、帰国留学生名簿の作成、留学生 OB・OG との懇談会の開催など、帰国留学生のネットワーク構築及びその強化を図っている。

- 女性研究者の教育研究活動支援のため、研究補助員（研究支援者）配置制度を実施し、延べ5名の研究者に研究支援者を配置するとともに、女性研究者の裾野拡大のため、女子大学院生が小中高校へ赴きこれまでの進路選択の経緯や研究内容について出前講義を行う「サイエンス夢追い人育成プロジェクト」を9小中高校 1,054 名を対象に行い、講義前に比べ「科学への興味・関心」が向上する成果をあげたほか、女性研究者ロールモデル発見の一助とするため、岐阜県内の高等教育機関が連携するネットワーク大学コンソーシアム岐阜において、学内の女性教員が講師を務める「なでしこ教養セミナー 2014」を平成 26 年度から開講することを決定している。
- 教育研究及び就業と家庭生活との両立支援のため、岐阜市近郊で行われる子供向けイベントスケジュールや急な病気・けがの時の連絡先一覧を掲載した「働く親のための夏休みこどもガイド 2013」を新たに発行するとともに、毎月の NewsLetter「かもみーる通信」の発行やフォーラムの開催、全学共通教育での関連講義等、男女共同参画を推進する情報発信を実施しているほか、子供の長期休暇中における教職員への保育環境の提供及び子供の職場理解の促進を目的として、「カモミールこども大学」を開催し、農場での野菜収穫体験や医学部附属病院のヘリポート見学などを行っており（延べ 31 名参加）、これらの取組が評価され、岐阜市から平成 25 年度岐阜市男女共同参画優良事業者として表彰を受けている。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由） 年度計画の記載 9 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

（2）財務内容の改善に関する目標

- ①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加、②経費の抑制、
- ③資産の運用管理の改善

平成 25 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 早野第 7 代学長生家の寄附を受け、学術研究のフィールドワークの活動拠点や歴史的資料等の展示、地域へのサービスの提供・交流の場とすることを目指し、新たに「岐阜大学旧早野邸セミナーハウス」を設置した。同セミナーハウスには、座敷セミナー室や郷土資料の展示室などを設け、地域科学部のフィールドワークや外国人留学生の体験型研修、学生の絵画作品展示スペースとして活用しているほか、地域住民の憩いの場としても開放しており、地域科学部の実習科目「地域科学実習」や岐阜経済大学・岐阜市立女子短期大学との連携事業である美濃赤坂デザインセミナー、教育委員会研修の会場として活用している。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 11 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

(①評価の充実、②情報公開や情報発信等の推進)

平成 25 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- ブランドイメージ向上及び優秀な留学生獲得のため、大学公式ホームページ上に「The Global Lectures of Gifu University (GLG)」を公開しており、英語による大学紹介動画及び特色ある研究テーマに関する担当教員の英語による 4 本の動画を公開し、世界に向けて発信しているほか、学生生活紹介ビデオやキャンパス内の様子がホームページ上からヴァーチャルに確認できる「岐阜大学パノラマツアー」を公開し、教育研究環境を広く社会へ向け発信する取組を行っている。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 7 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

(①施設設備の整備・活用等、②安全管理、③法令遵守)

平成 25 年度の実績のうち、下記の事項に**課題**がある。

- 平成 24 年度評価において評価委員会が課題として指摘した、個人情報の不適切な管理については、その後も、附属病院において医師が患者の個人情報が記録された USB メモリーを紛失する事例、附属学校において教諭が生徒の個人情報が記録された USB メモリーを紛失する事例があったことから、再発防止とともに、個人情報保護に関するリスクマネジメントの強化に一層努めることが求められる。

【評定】 中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 10 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められるが、個人情報の不適切な管理事例があったこと等を総合的に勘案したことによる。

II. 教育研究等の質の向上の状況

平成 25 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 英語のみで最新の研究・知見を講義する「ADAMS(Advanced Doctor Course Alliance of Medical Science)」を新たに開講し(参加者数延べ 154 名)、国際性を備えた人材養成を推進している。
- 敷地内に校舎がある岐阜薬科大学との連携を図り、両大学の教育研究活動の連携を推進するための場として、平成 23 年度から設置した「医薬連携推進部会」において、臨床研究推進支援経費制度として両大学の教員が参加する研究課題を公募しており、平成 25 年度は 7 件に総額 6,000 千円を支援した。また、両大学教員による「岐阜構造生物学・医学・論理的創薬研究会」の結成、大型機器や動物実験施設の共同利用、異分野交流研究会の開催など、研究面での連携を推進している。
- 産業界のニーズに応え地域リーダーに要求されるリーダーシップ能力等を身につけることを目的として、新たに「長期インターンシッププログラム (Gifu University Long-term Internship Program : GULIP)」を開始し、派遣先企業等から与えられた課題に対してチームで課題解決を行う約半年間の PBL (Project-Based Learning) 型教育プログラムとして実施しており、7 つの企業等に 47 名の学生を派遣するとともに、プログラム終了後に、その教育効果についてループブックを用いて測定した結果、学内で定めている基盤的能力の全ての要素がプログラム前に比べ向上しており、本プログラムが学生の能力向上に貢献したことが明らかとなっている。
- より高度な専門的獣医学教育の実施及び強固な獣医学研究体制の構築を目的として、鳥取大学と連携して、新たに「応用生物科学部共同獣医学科」を設置し、鳥取大学と共同で教育課程、コア・カリキュラムを実施するとともに、両大学間での遠隔講義システムによるメディア授業や教員・学生移動による講義・実習・演習を実施し、共同獣医学科としての強みを十分に活かした教育に取り組んだほか、学年進行に伴い開講科目数が複数になるメディア授業に対応するため、現有の遠隔講義システム 2 セットに加え新たに 4 セットを導入・設置して、教育体制の整備・充実を図っている。
- 農学系博士教育の質の保証を目指し、大学院連合農学研究科を中心として、5 か国 10 大学とともに、新たに「南部アジア地域における農学系博士教育連携コンソーシアム」を結成し、7 月に開催した「The 2nd UGSAS-GU Roundtable & Symposium 2013」では、コンソーシアム結成に係る協定書を取り交わすとともに、各国から招へいた農学系研究科長等と若手研究者による円卓会議やシンポジウム、同研究科のホームカミングデー等を開催している。また、同コンソーシアムでは、民間企業 5 社と連携して「岐阜大学大学院連合農学研究科教育コンソーシアム後援会インダストリー部会」を設置し、南部アジア地域の民間企業や地域の産業界において即戦力として活躍できる人材の養成を推進することとしている。

附属病院関係

(教育・研究面)

○ 地域医療に貢献できる医師育成を推進するため、新たに「医師育成推進センター」を設置して卒前から卒後まで一貫した臨床実習の教育体制を整備し、研修医及び若手医師を対象とした研修医セミナーや救急症例検討会等の研修を定期的に行うとともに、高校生を対象とした外科手術模擬体験セミナーを開催している。

(診療面)

○ 岐阜県内の円滑な救急利用体制を構築するため、岐阜県と連携し、新たに「岐阜県消防・医療連携情報センター」を設置し、救急患者受入コーディネーターにより全県的な救急搬送の搬送先調整を行い、救急患者の救命率向上を図っている。

(運営面)

○ 他医療機関による紹介・逆紹介率の向上を図るため、各診療科キャラバンを実施することにより、新たな患者増に努めた結果、逆紹介率は平成 24 年度比 2.5 %減の 43.6 %となったものの、紹介率は平成 24 年度比 1.1 %増の 71.0 %となり、病院収益は平成 24 年度比 2.8 %増の 183 億 400 万円となっている。

また、医療経費の節約のため、医薬品の値引率について平成 23 年度実績を目標とし業者等との交渉を行った結果、値引率を平成 24 年度比 1.8 %向上させ、目標がおおむね達成されているとともに、後発医薬品の採用品目を 105 品目から 123 品目に拡大するなど切替えを引き続き進めた結果、医薬品に係る経費を約 6,600 万円節減し、病院全体の貢献利益率の向上に寄与している。